

クリエイティブ産業に関する商業集積の形成過程に関する考察

- 渋谷地域と秋葉原地域 -

中村 仁

日本経済大学経済学部

nakamura.jin@tk.jue.ac.jp

キーワード：商業集積・クリエイティブ産業・闇市・街区整備・共同商業ビル

1.はじめに

商業集積地は総合的にもしくは専門分野の中で大小及び種類の差はあれど、製品の販売ないしサービスを提供する多くの商店ないしは百貨店、若しくは百貨店に近似した機能を持つ商業ビル等が集積することで形成されている。商業集積の代表的な形態として、渋谷や銀座・新宿など百貨店ないし共同商業ビルを中心として発展した商業集積が挙げられる。このような地域では複数の百貨店ないし共同商業ビルが存在し、その周辺に中小規模の小売店舗が集積する形態となっている。業種としてはファッション産業に関連する店舗が中心となる。一方で、中小規模の小売店舗が中心となり、百貨店や商業ビルが中心とはいえない商業集積も存在する。例えば電子機器やコンテンツ産業の代表的な商業集積である秋葉原はこの典型例であり、近年大規模商業ビル等の建設が進みつつあるも、中心はあくまで中小の小売店舗等となっている。このような商業集積は他にも神保町(書籍商)・御徒町(宝石商)などが存在する。本研究では、東京都心部の商業集積を小規模商店の集積によって形成される商業集積と、大規模小売店舗等を中心とする商業集積の2つに大別し、その特徴や形成過程を研究するとことで、これらがどのような違いによって違う発展を歩んだのかを明らかにすることを目的とする。

2.対象地域の選定

本研究においては、渋谷地域と秋葉原地域を代表的事例とし、これを比較する。この2つの地域はどちらも戦後の焦土からの復興という点で、現在の商業集積の形成が始まる時期・条件をほぼ同一としている。復興当初は露天商を含む多くの個人商店が中心であったこと、後に専門性を帯びてくるにせよ当初は事実上の総合小売市場であったこと、露天商の撤廃が同時期に行われたことなど多くの共通点を有している。ただし、戦後の商業集積地における闇市や露天商に関する研究は、その多くは新宿や御徒町の「アメ横(アメヤ横丁)」を対象とするものはあるものの、渋谷・秋葉原地域ではない。これらに関する文献としてアメ横に関しては長田(2006)、新宿については尾津(1998)などが挙げられる。またかこから現代に至る露天商に関する研究としては厚

(2012)が代表的であるが、同研究は城東地域が中心であり、渋谷・秋葉原地域への援用は推定に留まる。この点から、戦後復興期の渋谷・秋葉原地域についての研究もあまり研究対象となつてこなかったと言わざるを得ない。

一方で現在、渋谷地域は百貨店及び大型商業ビルが中心となっていることに對し秋葉原地域は中小店舗が中心であること、渋谷地域が比較的長期にわたつてのファッション産業の中心として機能しているのに対し、秋葉原地域は電子パーツからゲームなど、さらにはメイド喫茶やアイドルなどより広義に解釈されるコンテンツ産業の中心として機能しているという違いが存在する。このように当初多くの類似点を持ちつつもそれぞれが独自の発展を遂げたという点から比較対象としての選定を行った。

しかし、この2つの地域は先行研究の蓄積は大きく異なる。秋葉原地域は多くの研究において調査対象地域となつており、電子産業時代を中心とした日本経済新聞(1982)の他、近年の変化についても遠藤(2006)、片山他(2009)、林他(2013)、小山(2009)、妹尾(2007)、中村(2012)、藤田(2006)、三宅(2010)、森川(2003)などが挙げられ、他にも多くの研究が存在する。しかし、渋谷地域は村松(2010)などの研究で中心として扱われているものの、少なくとも秋葉原と比較して、商業集積を含む第二次世界大戦後の変化に関する研究の蓄積は少ないと言わざるを得ない。このように渋谷地域が多く研究対象とならなかつたことについてその理由では定かではないが、フィールドワークにおいてインタビューを行った際にもインタビューにほとんど研究者との接触経験がなかつたことは明らかであつた。ただし、ファッションビジネスに関する文献としては高井(2012)などが存在する。

3.戦後復興初期の東京

戦後復興初期の東京は、人々にとって闇市が生活物資の主たる調達先であつた。当時の状況について深川(1947)は「例えば最近のような闇市場のような例を引きましても、今日野菜や魚等は配給だけでは間に合いませんので、どうしても闇の力を借りなければなりません、どこの闇市場でもどのものでも大抵賣格は一定しております。」と述べていた。また、中林(2011)には「米、芋、うどん、すし、にぎりめし、全部ある。禁制品である。改装の粉末使用の代用うどん、米の代わりにおからで作つた鯨ベーコンのすし、メチール入りの粕取焼酎、燃料用アルコールの入つた爆弾焼酎、粗悪なゴムを使用して澱粉のような粉を吹いたデンプン長靴。水落としのタバコを拾い集めて再生した手巻煙草。そのためにピース、コロナの空き箱を拾い集める商売もあつた。」とある。このような闇市は終戦の1945年8月15日から始まる。尾津(1998)によると、8月15日以降同年10月下旬まで、当時の五大新聞に以下の広告が掲載された。

《転換工場並びに企業家に急告》

平和産業の転換指導はもちろん、其出来上り製品は當方自發の「適正価格」で大量引き受けに應ず。希望者は見本及び工場原價見積書持參至急來談あれ。

新宿マーケット 関東尾津組 淀橋区角筈一ノ八五四(瓜生邸跡)

この広告の背景には、少なくとも当時の新聞社にとって、闇市の存在や運営する組織について、この内容の広告掲載に差し支えがないと判断されたことが挙げられる。しかし、このような闇市は衛生上の問題として連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)の指示により解体されることになるが、現代において反社会的勢力と称される組織が運営していたが実質的な理由であると指摘されている。当時新宿と同様、闇市として栄えてきた渋谷・秋葉原地域も大きく転換を迫られることとなった。

3.闇市から店舗へ

渋谷・秋葉原地域において闇市が事実上閉鎖されることとなったとはいえ、いくつかの問題が存在する。その第一は、事実上人々があらゆる商品を購入している闇市の閉鎖は生活に直結する大問題である。そのため、行政は闇市を構成する商人達を常設店舗で引き続き商売を続けるよう誘導することとなる。そのための手法として街区整備を行い、平屋や2階建の長屋にこれらの商人を収容し、引き続き市場としての機能を保つ試みが行われた。ただし、闇市における土地の権利関係は非常に複雑であり、単純に分類すると土地所有者・賃借人・営業権を持つ商人であるが、実際には更に複雑となっていた。これらの一部はこの街区整備により整理されつつも、多くはそのまま継続することとなる。しかし床面積を増加させるための高層化と、防災面で安全性を図るための鉄筋コンクリート化、上下水道の整備など多くのメリットも存在した。

4.街区整備から再開発へ

長屋型の店舗に収容されたかつての闇市は、その後渋谷地域・秋葉原地域では違った変化を辿ることとなる。秋葉原地域では中小の商店が多く残り、商業ビルであるラジオセンター・ラジオストアなどは区分所有ないしそれに近い形態として、権利者が自分たちの持ち分に応じて営業ないし賃貸を行っている。近年秋葉原でも大きな再開発が立て続けに行われているが、これらの中心は旧鉄道用地であり、実施にあたって立退き問題や権利調整は比較的発生しづらい構造であった。一方、渋谷地域は大きく様相が異なる。渋谷では東急百貨店や西武百貨店などが存在する他、渋谷駅前には小規模な権利者が多数存在するなど混在していた。そのためか再開発に関わるデベロッパーは中小の権利者との調整が多数発生することとなり、例えば渋谷109では地権者による持ち分はあるものの、その床の賃貸に関してはデベロッパーが一括して窓口となり調整を行っている。そのため、共同商業ビル全体の意思統一や運用が百貨店と同様容易になる環境であった。此

の違いは、秋葉原地域における店舗の多くが比較的業種内の細分化された小売を担う存在であったのに対し、渋谷地域はそれぞれの店舗が秋葉原に対してより競争環境にあったことも一因ではないかと考えられる。

【参考文献】

- 厚香苗「テキヤ稼業のフォークロア」青弓社, 2012.
- 遠藤論「変貌する秋葉原」『情報処理』, 情報処理学会, 46 巻 3 号, 2006, pp.314-315.
- 尾津豊子「光は新宿より」K&K プレス, 1998.
- 片山健介・梶谷彰男・保利真吾・平本一雄・志摩憲寿「東京における集客型市街地の変容過程に関する考察 その4 秋葉原の事例」『日本建築学会大会学術講演梗概集(東北)』, 日本建築学会, 2009, pp.1187-1188.
- 林恵子・池本将章・兼田敏之・小山友介・中村仁「東京都秋葉原地区における回遊行動ならびに用途断面に関する調査研究」『日本建築学会技術報告集』, 第 19 巻第 41 号, 日本建築学会, 2013, pp.315-319.
- 小山友介「秋葉原の持つ揺籃機能」, 出口弘・田中秀幸・小山友介(編著)『コンテンツ産業論—混淆と伝播の日本型モデル』東京大学出版会, 2009.09.18.
- 妹尾堅一郎「アキバをプロデュース 再開発プロジェクト5年間の奇跡」アスキー, 2007.
- 高井尚之「セシルマクビー 完成の方程式」日本実業出版社, 2012.
- 長田昭「アメ横の戦後史 カーバイトの灯る闇市から 60 年」KK ベストセラーズ, 2006.
- 中村仁「高度専門化した広域的商業集積地の形成」『社会・経済システム』, 第 33 号, 社会・経済システム学会, 2012.
- 中林啓治「記憶の中の街 渋谷」河出書房新社, 2001.
- 日経産業新聞(編)「The 秋葉原 電子産業の縮図」日本経済新聞社, 1982.
- 深川タマエの発言「第一回国会参議院財政及び金融・商業・鉱工業委員会会議録第五号」, 1947.11.20, p.2(『第一回国会参議院委員会議事録(第二十八部)所収』).
- 藤田 真弓・木村 麻里子・和田 華子・小嶋 勝衛・根上 彰生・宇於崎 勝也・川島 和彦「秋葉原地区における空間構成に関する研究 - 建物床用途の現状分析 -」『2006 年度日本建築学会関東支部研究報告集』日本建築学会, 2006, pp.177-180.
- 三宅理一「秋葉原は今」芸術新聞社, 2010.
- 村松伸「シブヤ遺産」バジリコ, 2010.
- 森川嘉一郎「秋葉原電気街におけるオタク系専門店の増加の調査」『日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)』, 日本建築学会, 2003, pp.441-442.